

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-152	C-141	15-305	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)			
OPRM1 genotype and naltrexone response in depressed alcohol-dependent patients. うつ病のアルコール依存症者における OPRM1 遺伝子型とナルトレキソン反応			
執筆者			
Foulds JA, Ton K, Kennedy MA, Adamson SJ, Mulder RT, Sellman JD.			
掲載誌			
Pharmacogenet Genomics. 2015 May;25(5):270-3. doi: 10.1097/FPC.000000000000128.			
キーワード			PMID:
うつ病、ナルトレキソン、アルコール依存症			25715171
要 旨			
<p><math>\mu</math>-オピオイド受容体遺伝子 (OPRM1) の機能的多型 rs1799971 (A118G) はアミノ酸置換 Asn40Asp を生じる。そして、それは非うつ病のアルコール依存症患者でナルトレキソン反応に影響すると考えられている。</p> <p>本研究では、アルコール依存症と大うつ病 (n=108) 患者が 12 週間非盲検でナルトレキソンと臨床症例マネジメントを受け、シタロプラムまたはプラセボにランダム化された。</p> <p>一般の線形混合モデルは、治療の間に、アルコール結果に関する OPRM1 A118G 遺伝子型の効果を調べた。</p> <p>断酒をした日のパーセンテージ、飲んだ日の飲酒量、大量飲酒した日に関して、治療の間、Asp40 キャリアと非キャリアの間に差はなかった。</p> <p>従って、本研究はナルトレキソン反応に関してこの一塩基変異多型のために以前の陽性所見を複製するのに失敗した。そして、おそらく、その効果がうつ病患者では存在しないことを示した。</p>			